

令和 6 年 6 月 6 日現在

機関番号：17301

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K18401

研究課題名（和文）HDSSを活用した安全分娩基本セット配布の母子保健活動に及ぼす効果の測定

研究課題名（英文）Effects of the HDSS-based distribution of the safe-maternity kits on the maternal and child health activities

研究代表者

門司 和彦（Moji, Kazuhiko）

長崎大学・熱帯医学・グローバルヘルス研究科・教授

研究者番号：80166321

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,800,000円

研究成果の概要（和文）：ラオスでは自宅分娩がまだ行われており、妊産婦死亡率も新生児死亡率も高い水準にある。国際機関は施設分娩を奨励する立場から妊婦に清潔分娩キットの配布をしなくなった。今回の調査で、分娩サービス提供者は清潔分娩キットの重要性を理解し配布を希望したが、妊婦は清潔出産に関する知識と興味が薄く、介助者まかせになっていることが判明した。清潔な臍帯切断について出産前検診ANCでの説明は不十分であった。母子健康手帳に出産についての準備や心構え、用意すべきものをより具体的に書き込み、それをANCで指導することが重要であり、ヘルスセンター職員、村落保健ボランティアへのトレーニングが重要であることが判明した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

1980年代から90年代にかけて、自宅分娩が実際におこなわれている現状から、多くの国で清潔分娩キットclean delivery kitを女性が使用できるように普及を推進してきた。当時、世界保健機関WHOも基本的に清潔分娩キットの配布には協力的であった。しかし、その後、国際機関は施設分娩を積極的に奨励する立場をとり、清潔分娩キットの配布を積極的に進めない立場となった。施設で訓練を受けた医師・看護師・助産師が立会い清潔を保てた状態で分娩ができることが理想であるが、ラオスの僻地ではそのような状態にはなく、自宅分娩の場合も含めて清潔分娩キットの配布を再考すべきなのではないかと考えられた。

研究成果の概要（英文）：Home delivery is still practiced in Laos, and both maternal and neonatal mortality rates are high. International organizations no longer distribute clean delivery kits to pregnant women because of their position of encouraging facility deliveries. The survey revealed that delivery service providers understood the importance of clean delivery kits and wanted to distribute them, but pregnant women were less knowledgeable about and interested in clean delivery, leaving it up to the caregivers. Explanation of clean umbilical cord cutting at antenatal checkup ANC was inadequate. It was found that it is important to write more specifically in the Maternal and Child Health Handbook what to prepare, how to prepare, and what to prepare for childbirth, and to teach this at ANC, and that training for health center staff and village health volunteers is important.

研究分野：地理学、文化人類学、民俗学およびその関連分野

キーワード：清潔な分娩 ラオス 分娩 新生児 妊産婦 ママキット

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

1980年代から90年代にかけて、民間団体の PATH (Program for Appropriate Technology in Health 健康分野における適正技術プログラム、米国ワシントン州シアトル市)などは自宅分娩が実際におこなわれている現状から、多くの国で清潔分娩キット clean delivery kit (「ママキット」などと呼ばれていた)を女性が使用できるように普及を推進してきた。当時、世界保健機関 WHO も、国連児童基金 UNICEF も、国連人口基金 UNFPA も基本的に清潔分娩キットの配布には協力的であった。しかし、その後、国際機関は施設分娩を積極的に奨励する立場をとり、自宅分娩を推奨しかねないという懸念から基本的清潔分娩キットの配布を積極的に進めない立場となった。近年、WHOをはじめとする国際機関は、「施設分娩促進・訓練された専門家が介在した分娩の推進」から安全分娩キットを妊婦に配布することはしていない。確かに設備の整った施設で、訓練を受けた医師・看護師・助産師が立会い、十分な清潔を保った状態で分娩ができることが理想であるが、研究代表者らの過去の観察からラオスの僻地ではそのような状態にはなく、自宅分娩の場合も含めて清潔分娩キットの配布を再考すべきなのではないかと考えられた。(さらに、施設分娩のサービスの質にもかなり問題が残っている)清潔分娩キットを使用することにより、母親や新生児の破傷風、産褥敗血症、臍帯感染を減らすことが可能となる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、出生前検診(ANC)において「ママキット」と呼ばれる基本的な清潔分娩キットを母親に提供し、安全な出産の割合を高めることを目標に現地の村落ヘルスボランティアを巻き込んだ活動を実施し、(1) 出産前検診(ANC)への参加率の上昇、(2) ママキットを利用して出産した女性の満足度の状況、(3) 妊産婦死亡、新生児死亡のケーススタディ(原因究明)を実施することであった。調査の結果、それ以前問題として、県病院、郡病院、ヘルスセンターでも十分に安全な分娩セットが揃っていないことが判明し、どのような道具をどのように妊婦に供与するかについての聞き取り研究を実施した。

3. 研究の方法

新型コロナウイルスの影響を考慮し、ラオス保健省、現地の研究者と協力しながら、ラオスの現状にあったママキットの開発とその配布方法を検討する。当初、長年健康・人口サーベイランスシステム(HDSS)を運営してきたサワンナケート県の郡病院、保健センターでの研修を検討したが、新型コロナウイルスの影響でビエンチャン県での活動が中心となった。

4. 研究成果

(1) ママキットの配布をラオスの施設で実施したことがある UNFPA のラオス事務所、それに協力したラオス保健省旧国立公衆衛生研究所(NIPOH)とオンライン会議等で意見交換を実施し、様々な状況を教えていただいた。UNFPA は母親に清潔分娩キットを直接、配布することについては消極的で、キットの内容もトレーニングを受けた医療提供者を対象としたものであった。そのようなものは比較的高価であることもあり、持続可能性がなく、プロジェクトはすでに中止されていた。清潔分娩に必要な器具、消耗品は基本的なものであり、ラオスでは分娩サービスが無償化されているので、保健省の予算で清潔な分娩が実施されるべきであるとのことであった。UNFPA が知る限り、現在、清潔分娩キットの配布を実施している国連組織、団体はラオスにはないとのことであった。ある意味で「時代遅れの研究・実践」をしているように受け取られたと思われる。

(2) 中国製の10ドルの清潔分娩キットをある県病院の分娩の担当者に使用してもらった結果、「県病院でぜひ使用したい」「県病院で現在利用している消耗品よりも優れているという意見があった。この清潔分娩キットには次のものが含まれていた。テーブルシート back table cover (100*150cm) =産み落とす面を清潔に保つビニールシート、尻当て under buttock drape (86*110cm)、衛生ナプキン、臍帯クランプ(2つ)、新生児識別プレスレット(3つ)、手術用ビニール手袋(一対)、新生児パンツ(布製)、ハサミ、新生児用ブランケット(不織布 60*90cm)、不織布マスク。このキットは医療施設用であり、清潔分娩キットでもっとも重要とされる石鹸が入っていないこと、臍帯切断がハサミになっていて、「清潔な剃刀」でない、絵により使用方法の指示がないなどが問題であり、色々なものが入っていて高価になっていた。

PATH および WHO が最低限必要とするものは、石鹼、臍帯カット用の剃刀、臍帯を縛るためのクランプ（あるいは紐）、産み落とす面を清潔に保つためのビニールシート、それらを清潔に使うための絵による指示書とされ、さらにそれらを清潔にパッキングすることも要求されている。これらは工夫次第では 1 ドル、あるいは 100 円でそろえられる可能性がある。その他のガーゼ、アルコール、消毒薬、ゴム手袋（4 セット）、石鹼、メス、ピンセットなどは基本セットには不必要だとされるが、その認識は医療サービス提供者には共有されていなかった。

（3）一方、これから出産する妊婦は清潔出産に関する知識と興味が薄く、介助者まかせになっていることが判明した。母子健康手帳では臍帯カットについて清潔な剃刀等で切断することが簡単に記載されているが、それに対して ANC での説明は不十分であった。（施設分娩が標準化することによる問題とも考えられた。）清潔分娩キットが 10 ドルだと買えない家族も多いとのことであったが、1 - 2 ドルならば購入したい、しても良いとのことだった。出産を経験した母親は一部のものについては必要性を認めたが、全体についての必要性についてはあいまいな意見であった。むしろ、分娩キット以外のもの（自分で揃えなければいけない赤ん坊のものなど）への要望が多かった。

（4）安全分娩基本セットを出産前検診で妊婦に配布する場合は、出産前検診 ANC 時に十分な説明、教育、分娩についての具体的なシミュレーションが大切である（現時点では、出産前検診での「分娩に関する情報提供」が不十分である）ことが確認できた。特に、母子健康手帳に出産についての準備や心構え、用意すべきものをより具体的に書き込み、それを ANC で指導することが重要であり、そのために、ヘルスセンター職員、村落保険ボランティアへのトレーニングが重要であった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Kawaguchi Yoshiko, Sayed Ahmad M., Shafi Alliya, Kounnavong Sengchanh, Pongvongsa Tiengkham, Lasaphonh Angkhana, Xaylovong Khamsamay, Sato Miho, Matsui Mitsuaki, Imoto Atsuko, Huy Nguyen Tien, Moji Kazuhiko	4. 巻 16
2. 論文標題 Factors affecting the choice of delivery place in a rural area in Laos: A qualitative analysis	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1371/journal.pone.0255193	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	金子 聡 (Kaneko Satoshi) (00342907)	長崎大学・熱帯医学研究所・教授 (17301)	
研究分担者	東城 文柄 (Tojo Bumpei) (90508392)	東京外国語大学・世界言語社会教育センター・准教授 (12603)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------